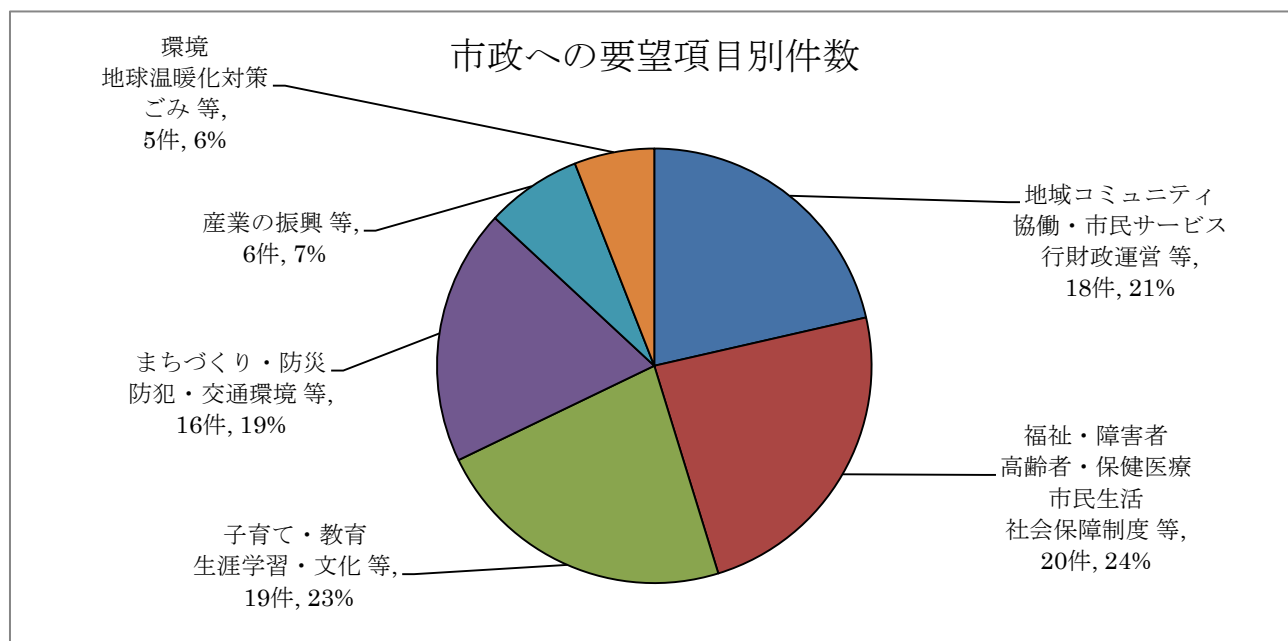


平成30年度（2018年度）「市長と語る」の提案等取り組み状況

開催実績

開催日	会場・メインテーマ	延べ参加者数 (人)	発言者数 (人)	発言項目数 (件)
5月26日	八王子駅南口総合事務所 「八王子のまちづくり」	128	8	10
6月2日	石川市民センター 「石川地域のまちづくり」	64	7	8
6月23日	横山南市民センター 「館地域のまちづくり」	64	7	9
6月30日	南大沢市民センター 「南大沢地域のまちづくり」	75	7	11



次ページから、平成30年度（2018年度）の「市長と語る」でいただいたご意見・ご提案とその後の取り組み状況の一例をご紹介します。

平成30年度（2018年度）の「市長と語る」でいただいたご意見・ご提案とその後の取り組み状況について

＜意見＞ 「高齢化の為、自治会運営の一部を外部に委託」について

自治会運営の一部を協力してもらえる人がほしい。団塊の世代は非常に経験も豊富で、人数も多いので、少ない報酬で手伝ってもらえると助かる。

（江端 克之 様）

＜市長発言（当日）＞

市では、定年退職後等における生きがいの充実や、社会参加の機会拡大、活力ある地域社会づくりに寄与することを目的とし、八王子市シルバー人材センターを支援している。センターでは市内在住で60歳以上の健康で働く意欲のある会員の皆さんが活躍している。

自治会ごとにセンターへ業務を依頼することは可能なので、ご相談いただければと思う。

また、東京都の「地域の底力発展事業助成制度」や、町会で事務員を雇い、集会所に常駐させて町会事務を行うなど、団塊世代の人材活用を含めた事例についても、協働推進課にご相談をいただければと思う。

【その後の対応】

高齢者の生きがいづくりを目的とした就業機会を提供する公益社団法人八王子市シルバー人材センターの運営支援・指導等を行うことで、高齢者の社会参加を促進するため、「シルバー人材センター運営費補助金」として、平成30年度（2018年度）に引き続き、令和元年度（2019年度）予算においても継続して予算計上している。

都の「地域の底力発展事業助成制度」を活用していただくよう、「2019年度地域の底力発展事業助成ガイドライン」を各町会に送付した。また、町会で事務員を雇うことについて相談があった場合には、既にその取り組みを行っている町会（めじろ台町会、片倉台自治会など）をお伝えする。

＜意見＞ 「学生の町、若者の町ー八王子の再認識」について

八王子市には多くの学生がいるので、学生に八王子の観光大使になってもらい、八王子の良さをインターネット・SNSで出身の都道府県に発信してもらおうと良い。

（横山 大生 様）

《市長発言（当日）》

シティプロモーションの取り組みとして、本市の持つ多彩な魅力を、特設サイトや魅力発信パンフレット等を通じ幅広く発信している。

また、大学コンソーシアム八王子や八王子学生委員会が組織され、数多く開催される学生イベントは、学園都市八王子の魅力を広くPRするコンテンツの役割を担っている。

さらに、大学コンソーシアム八王子により「学生CMコンテスト」や「学生企画補助金制度」など、学生が地域に出向いて活動し、本市の持つ新たな魅力を発見するきっかけとなる取り組みが進められている。

八王子で学び活動する一人ひとりの学生から、日頃感じ得た八王子の魅力を、SNS等を通じ幅広く発信し、八王子を盛り上げていただきたい。

今年度実施するブランドメッセージの作成など、若い皆さんが自ら八王子に関わって一緒に盛り上げていくという機運をつくる取り組みを、今後も推進していく。

【その後の対応】

平成31年（2019年）3月に八王子市のブランドメッセージ「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」を発表した。今後、利用マニュアルの公開により、市民がブランドメッセージを自由に活用して、八王子の魅力を発信する環境を整えるとともに、サイトやSNSなどでの市民活動の発信や地域ワークショップの開催を行うなど、若者が「八王子に関わり、盛り上げていきたい」と思ってもらえる機運醸成の取り組みを推進していく。

また、大学コンソーシアム八王子と連携を図り、学生が地域に出向いて活動し、本市の魅力の発信につながる事業の充実に引き続き取り組んでいく。

＜意見＞ 「ボーイスカウト・ガールスカウトを通じた『本市生涯学習、社会教育活動に学園都市としての利点を』」について

日本では少子高齢化により、スカウト運動に参加する子どもたちの減少に歯止めがかからない状況がある。八王子市は、全国的に誇れる学園都市であり、このすばらしい人的資源を活用しない手はないと考えている。

（佐藤 研治 様）

＜市長発言（当日）＞

市では、昨年策定した「はちおうじ学園都市ビジョン」において、学生の地域活動を支援し、各事業においても、学生ボランティアの参加を積極的に促進している。

スカウト活動をすすめていくうえで、人材の確保が難しいとのことだが、広報「はちおうじ」等を活用し、募集を行っていくほか、大学コンソーシアム八王子を通じて、青少年教育活動であるスカウト運動について周知していくことも可能と考えている。

【その後の対応】

ボーイスカウト・ガールスカウト関係団体等の要請に基づき、大学コンソーシアム八王子を通じ、スカウト運動について周知を図っていく。

また、今後も広報「はちおうじ」等を活用し支援していく。

＜意見＞ 「伝統文化を後世に残していくため」について

伝統文化を後世に残していくために、若い人材の確保が課題となっている。

SNSを活用したり、パンフレットを作成し、町会で回覧したり、町会報で募集をかけたりにしているが、なかなか応募者がいないのが現状。

今回、八王子市で「日本遺産」の認定をめざして準備が開始されたと聞いている。この日本遺産の認定がされれば、地元の方々に、我が町の宝として龍頭（りゅうとう）の舞をもっと認識してもらうことができ、舞をやってみたい若者が増えるきっかけにもなると思う。

（内田 好延 様）

＜市長発言（当日）＞

八王子には、龍頭の舞を含め9つの獅子舞が市の無形民俗文化財として指定されている。

このようなすばらしい伝統芸能がいくつも残されていることを、市民の方に大いに知っていただきたいと思っている。

市では、「伝統文化ふれあい事業」など、獅子舞継承の支援を行っており、今後も、獅子舞の理解や継承に力を注ぎたい。

日本遺産の認定には「歴史文化基本構想」を策定することが一つの条件となっている。当然、八王子の遺産として獅子舞も一つの伝統芸能としてしっかりと残していかなければならないと思う。

伝統芸能を継承することは、どこの地域も子どもの数が減ってきて厳しいところがあるが、皆さんが継続して活動ができるよう、支援策の充実を図っていきたい。

【その後の対応】

獅子舞の保存管理団体へ支給する管理公開謝礼金について、今年度から2万円から4万円に倍増し、保存会の支援をおこなった。また、歴史文化基本構想の策定や日本遺産申請の準備にあたり、獅子舞をはじめ伝統芸能の重要性をその中に盛り込む予定である。

＜意見＞ 「ごみ問題への取組」について

八王子は環境保護行政で非常に高く評価され、国際協力機構（JICA）からミクロネシア連邦での事業協力を依頼され、既に活動しているようだが、広報などで活動報告がされていない。八王子の誇れる仕事だと思うので、市民に広報してもらいたいと思う。

（大橋 勝彦 様）

＜市長発言（当日）＞

ミクロネシア連邦チューク州のごみ問題改善の取り組み事業については、JICA側の予算で、創価大学と連携しながら現地で指導を行っている。過去には中古の清掃車を送り、市の職員も青年海外協力隊として行っている。

現地には焼却施設がなく、全て埋め立てている。リサイクルといった文化もないので、ごみの収集業務やごみ減量に向けた指導をするために、今回事業提案を行ったところ、採択された。

現在、定期的にミクロネシアに行って指導を行っているが、本格的な取り組みが始まったばかりで、まだ市民の皆さんに報告する段階ではないが、ある程度進展したところで、広報等で報告したい。

【その後の対応】

- ・ 広報特集号（10月15日号を予定）にて、事業概要及び成果を報告予定。
- ・ 10月6日に開催予定の八王子市国際交流フェスティバルにて、事業概要を報告予定。

＜意見＞ 「高齢者の輝く八王子」について

八王子のまちをもっと住みやすく、楽しいまちにするには、高齢者世代の活躍の場の拡大と高齢者世代と若者世代の繋がりを大切にしていけば良いと思う。

高齢者世代の活躍の場の拡大としては、高齢者の方の再雇用をもう少し積極的に行えば良いと思う。

（峯尾 了理 様）

＜市長発言（当日）＞

地域社会の活力を維持するためには、豊富な知識や経験を持つ高齢者の皆さんの力が必要であり、その熟練した能力などを発揮できる環境整備が必要と考える。

高齢者の皆さんの活躍の場の一つであるシルバー人材センターでは、豊かな経験・知識・能力を活かしていろいろな仕事をしていただき、仕事を通して、自身の生きがいを高めるとともに、地域社会の活力あるまちづくりに貢献することを目指している。

【その後の対応】

高齢者の生きがいづくりを目的とした就業機会を提供する公益社団法人八王子市シルバー人材センターの運営支援・指導等を行うことで、高齢者の社会参加を促進するため、「シルバー人材センター運営費補助金」として、平成30年度（2018年度）に引き続き、令和元年度（2019年度）予算においても継続して予算計上している。

国（ハローワーク）や東京都と協力して就職面接会や就職支援セミナーを行うほか、高齢者を雇用した際の助成金制度を事業者を紹介するなど、働く意欲のある高齢者の就業を支援している。